

ロール
モデル
01



佐々木 順子

医学科
糖尿病・代謝・
内分泌内科学分野
病院助教

東京医科大学卒業
東京医科大学博士課程修了
博士（医学）
2015年より現職

研究テーマ (一言でいうと)

糖尿病と動脈硬化の関連性について薬剤評価の研究をしています。薬との関係を特殊な機械を用いて動脈硬化の変化を見ている。また、糖尿病の合併症や肥満など副次的な症状についても臨床研究をしています。

大変だったこと

産休中に専門医資格を取得しようと計画をしたのですが、仕事をしながら勉強、子守りをしながら勉強で、時間を見つけるのが大変でした。落ちることはできないというプレッシャーできつかったです。妊娠中は苦勞がなかったのですが、産後、保育園に預けて復帰したものの、病気をすると子どもを預けられなくなり、仕事に穴をあけてしまうのが怖かったです。糖尿病分野はどんどん新しい薬も出ているので、周りとの差ができていく焦りもありました。夫は本学の医師ですが、異動で結婚当初から勤務先が遠く別居婚で母子家庭状態でしたので、子どもを産むということがこんなにも思うように動けないのかと現実を知りました。両方を完ぺきにやりたい気持ちはありますが、難しいです。海外留学の夢も先延ばしです。

研究の魅力、これからの夢

一生仕事を続けようと思っていますし、診療もしたい、研究もしたいと思っています。よくわかっていないことをやるのは面白そうです。専門領域以外でもいろいろな方面に手を出していきたいです。基礎研究の手技をもう少しやっておけばよかったと思いますので、動物実験にも参加したいです。せっかく頑張ってきたことを無駄にしないように、今後は後輩に教えることができるようになります。

せっかく頑張ってきたことを
無駄にはしない
早くフル復帰したい

未来の女性研究者への応援メッセージ

やりたいことができる状況にスタンバイ

どういう医者になりたいか、早めにイメージをするとよいと思います。行き当たりばったりでは、そううまくいかないことも多いです。目処が立ってから出産するのもよいと思います。医者としての仕事はまっとうしてほしいですし、学位、専門医資格、臨床、研究など計画性を持って目標に達成していくよう心がけてください。子育てでやりたいことがうまくできないこともあると思いますが、私は家族みんなが健康で、やりたいことができる状況にスタンバイしておくことを大切にしています。



これまでの道のり

医者になれなかった父の夢をかなえたような形ですが、やりがいのある仕事だとわかり、チャレンジしてみようかと思いました。もともとリケジョですが、高校3年の秋に進路を変えました。大学5年の臨床実習を通して、歳を取ることが有利に働き、知識で勝てる分野であること、出産しても継続しやすいこと、将来的に患者が増える領域ということで糖尿病を選びました。研修医の時に先輩の研究発表を見て、自分の知らないこと、レベルの差に気づき、基礎研究をしたいと思いました。

結婚、出産の後に育休1か月で職場復帰して、今は短時間正規雇用制度を利用して病院助教という職位で週に2日勤務しています。子どもも1歳3か月になり、早くフルタイム復帰をしたいです。

研究を続けられた モチベーション

医局の仲間とのつながりが支えです。上司のパートナーは女性医師ということもあり、「そこはいいよ、任せていいじゃないか？」と声をかけてくれます。どこまで妥協していいか、相談して私からも提案をします。実際、夜中までデータ集めはできませんので、他の先生にお願いをしています。理解して協力をしてもらえるのでありがたいです。

私の両親は遠くに引っ越してしまいましたが、夫の両親は3人の子育てをしながら開業医として働いてきました。その姿は私のお手本ですし、今では夫と私も子どもも家族全員で寄せてもらい、食事をさせてもらっているのも助かっています。